



平成25年度文化庁日本語教育研究協議会〔北海道・東北地区〕
「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ
第1分科会

「生活者としての外国人」に対する 日本語教育の標準的カリキュラム案とは？

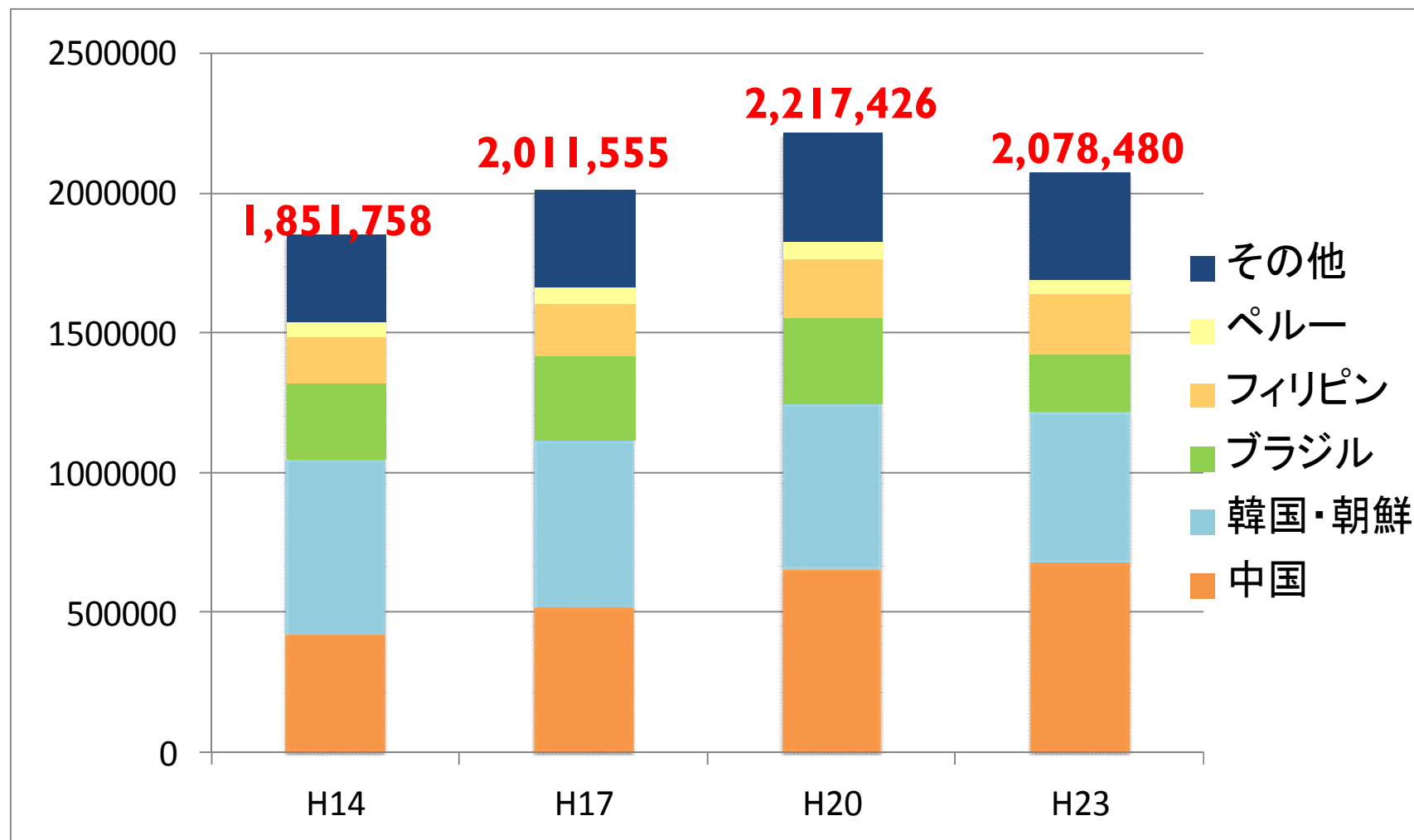
文化審議会国語分科会日本語教育小委員会委員
加藤 早苗

文化審議会国語分科会に
日本語教育小委員会が設置されて、
「カリキュラム案」の検討が始まったのは、
なぜ？





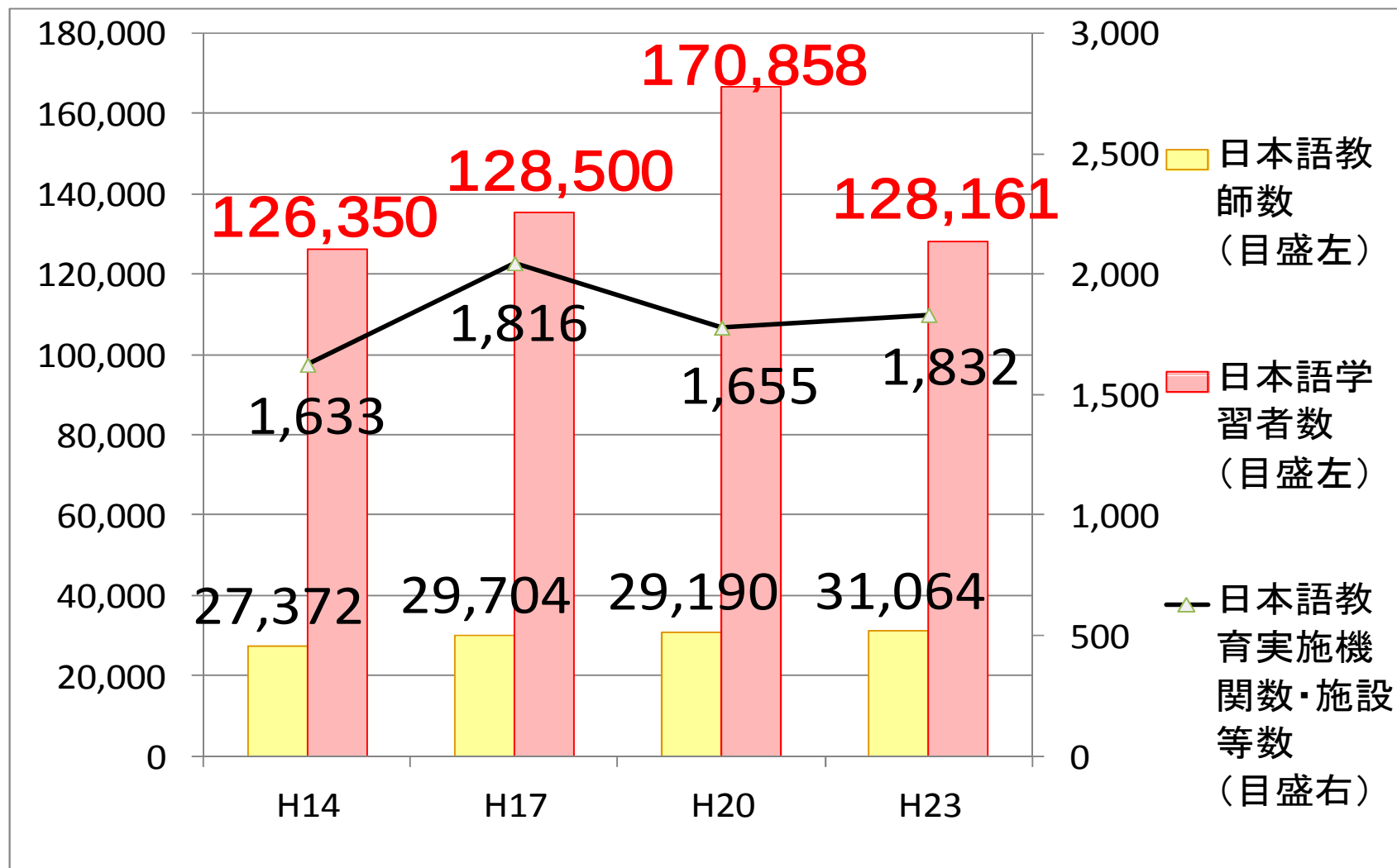
背景① 外国人登録者数の推移



※法務省調べ(各年末現在)



背景② 国内における日本語教育の現状



※文化庁調べ(各年11月1日現在)



「標準的カリキュラム」を示した背景と経緯

日本語を母語としない住民に対する
施策検討の必要性の高まり



「生活者としての外国人」が
地域社会の一員として参加するために必要な
日本語教育の体制整備・内容の改善の審議



「標準的なカリキュラム」案



「カリキュラム案」は、これまで
どのように作られてきたの？

5点セットって何？





日本語教育小委員会での検討と成果物

5点
セット

カリキュラム案

①H22/5 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について

ガイドブック

②H23/1 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック

教材例集

③H24/1 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集

能力評価

④H24/5 「生活者としての外国人」に対する日本語教育における日本語能力評価について

指導力評価

⑤H25/2 「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価について



「5点セット」に出てくることば

1. 指導者、コーディネーター、協力者
2. 生活上の行為
3. 能力記述 (can-do-statement)
4. 行動・体験中心の教室活動
5. PDCAサイクル



「カリキュラム案」は、
誰のために、
何のために、
作られたの？





「生活者としての外国人」とは？

ハンドブック P.6

● 「生活者としての外国人」 ってだ～れ？

○日本に居住する外国人の生活の側面に焦点を当てる言葉。

○「だれもが持っている「生活」という側面に着目して、日本で日常的な生活を営むすべての外国人を指すもの





「生活者としての外国人のための日本語教育の目的

ハンドブック P.5

●生活者としての外国人に対する日本語教育の目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、
「生活者としての外国人」が日本語で
意思疎通を図り生活できるようになること





「生活者としての外国人のための日本語教育の目標

ハンドブック P.5

○生活者としての外国人に対する日本語教育の目標

日本語を使って…

- ①健康かつ安全に生活を送ることができる
- ②自立した生活を送ることができる
- ③相互理解を図り, 社会の一員として生活を送ることができる
- ④文化的な生活を送ることができる

ようにすること



カリキュラム案① ～カリキュラム案とは～

ハンドブック P.9

カリキュラム案とは・・・

○各地域が地域の実情に合わせて、
独自のプログラムを作るための案

○「知る」ではなく、「できるようになる」ことが
期待される 生活上の行為を提示



カリキュラム案② ～カリキュラム案で扱う生活上の行為～

ハンドブック P.9

- | | |
|---------------|-------------------------|
| ●健康・安全に暮らす | ・健康を保つ ・安全を守る |
| ●住居を確保・維持する | ・住居を確保する ・住環境を整える |
| ●消費活動を行う | ・物品購入 ・サービスを利用 ・お金を管理する |
| ●目的地に移動する | ・公共交通機関を利用 ・自力で移動する |
| ●人とかかわる | ・他社との関係を円滑にする |
| ●社会の一員となる | ・地域・社会のルールを守る ・地域社会に参加 |
| ●自身を豊かにする | ・余暇を楽しむ |
| ●情報を収集する・発信する | ・通信する ・マスメディアを利用する |

「ガイドブック」は、
何のために作られたの？

特に“使える”部分は？





ガイドブック① ～ガイドブックとは～

ハンドブック P.II

ガイドブックとは・・・

○カリキュラム案を基にして、
地域の実情や外国人の状況に応じた
日本語教育プログラムを編成する際の
考え方、作成手順、その中で用いる
教室活動の方法を解説したもの

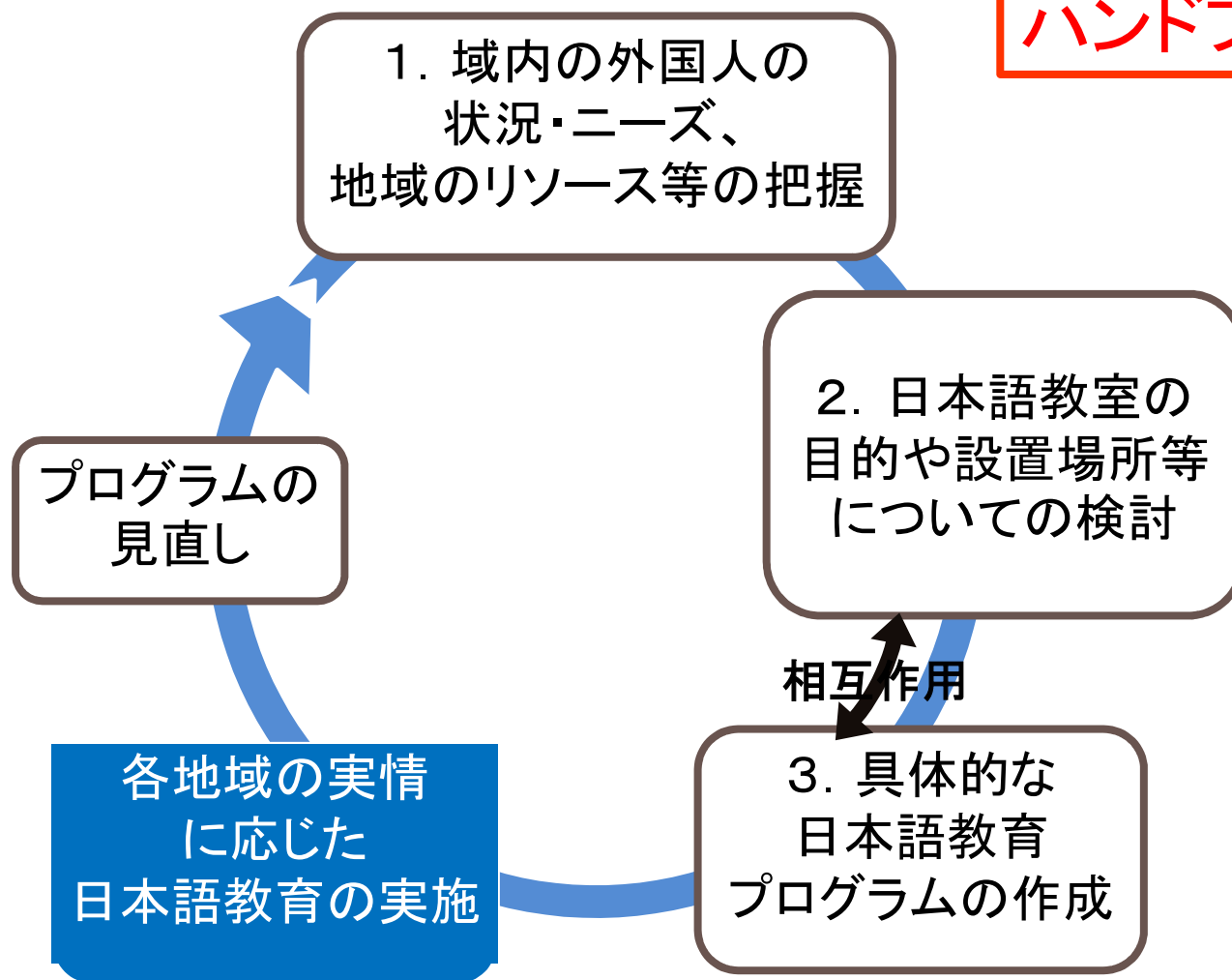
⇒日本語教室から地域社会へ



ガイドブック②

～日本語教育プログラムの作成手順～

ハンドブック P.II





ガイドブック③

～活用及び指導方法に関するポイント～

ハンドブック P.12

- 地域・学習者に応じた教育内容の選択と工夫
- 行動・体験中心の活動
- 専門家・地域住民との協働
- 対話による相互理解の促進



ガイドブック③

～ここを使ってほしい！～

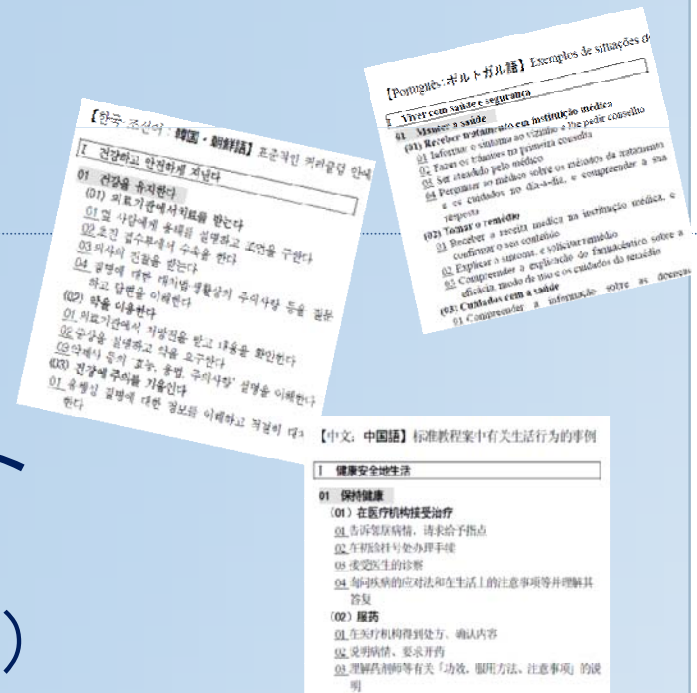
ハンドブック P.12

●学習者に合わせた日本語教育を行いたい

ニーズの把握

- ・何ができるようになりたいか。
- ・何を勉強したいか。

●生活上の行為の多言語化リスト (中国語・韓国/朝鮮語・英語 ポルトガル語・スペイン語)



「カリキュラム案」の
生活上の行為の事例を使って
学習者のニーズを把握したら、
何を使って教えればいいの？

「教材例集」は、テキスト？
これを使って教えればいいの？





教材例集 ～教材例集とは～

ハンドブック P.13

教材例集とは・・・

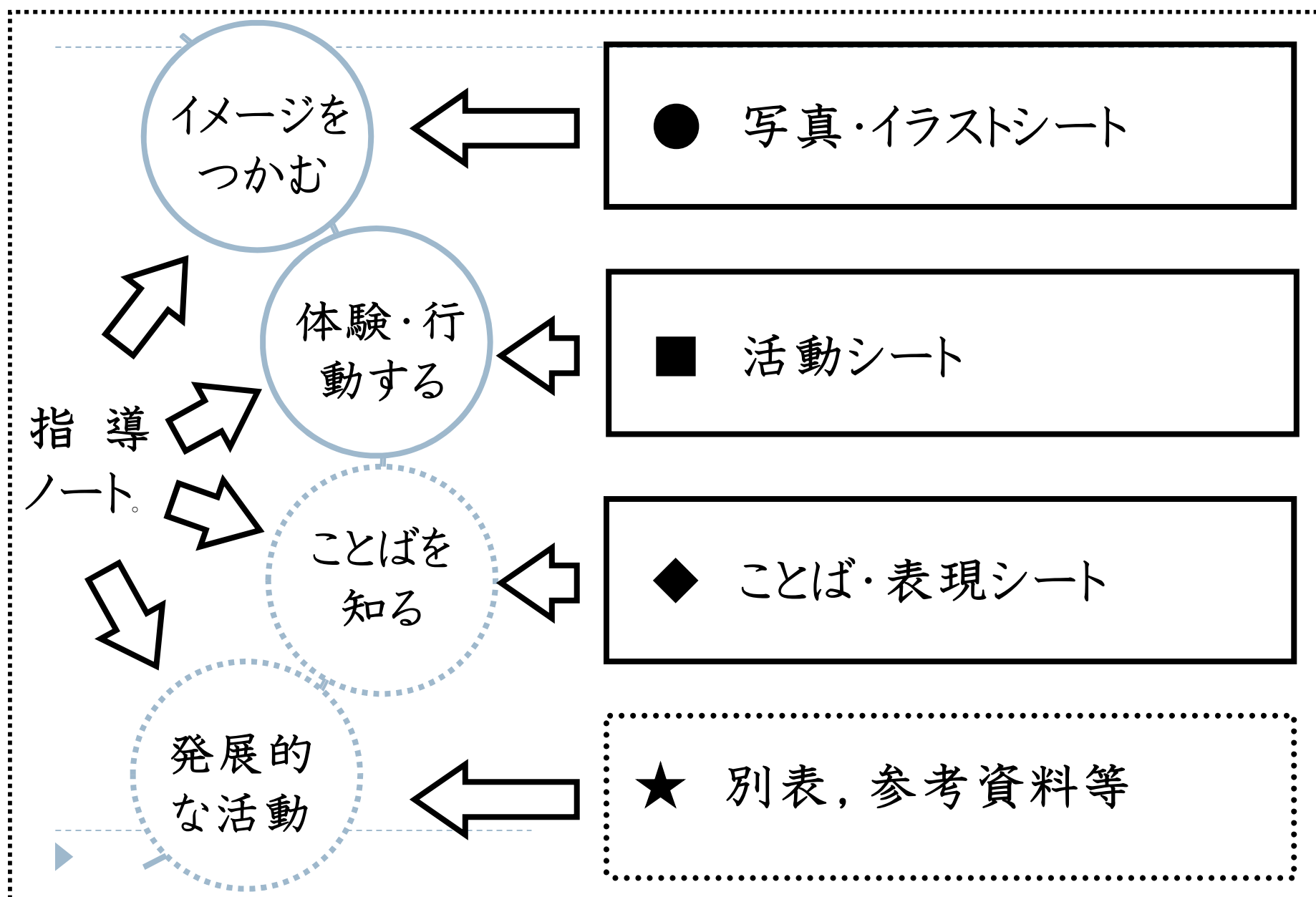
○日本語を用いて生活上の行為を行える
ようになるための、行動・体験中心の
教室活動で用いる教材の例示

○カリキュラム案から分野が偏らないように
生活上の行為を選択し教材を例示



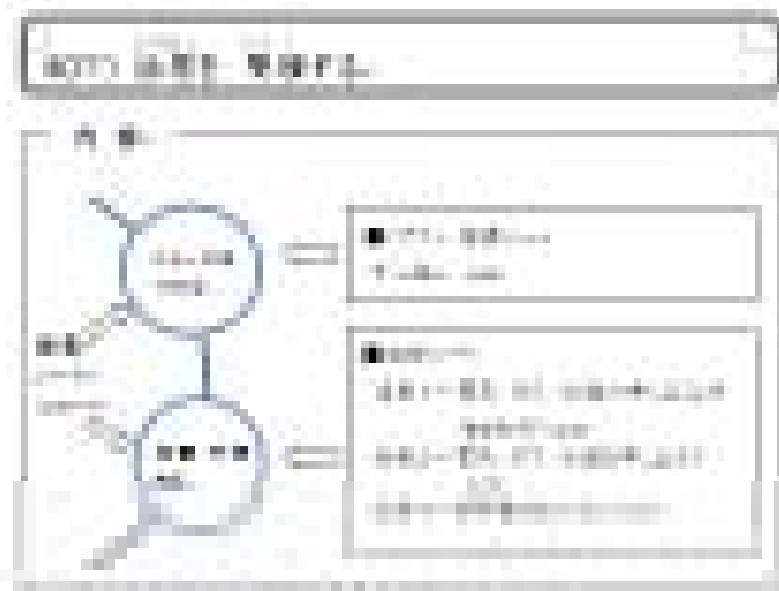
教材例集について

ハンドブック P.14





教材例集について



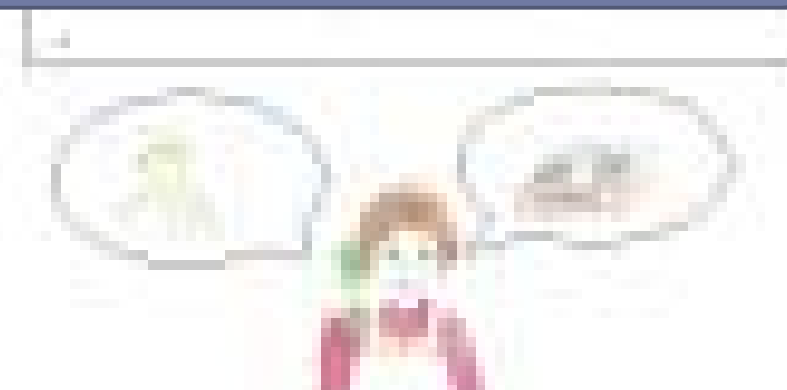


教材例集について



文化庁ホームページからダウンロードができます。学習者の状況や地域の実情に合わせて、適宜、工夫や加工を行った上で利用可能。

品名	品名	品名
品名	品名	品名
品名	品名	品名
品名	品名	品名



「日本語能力評価」は、
だれが、どうやってするの？

そのメリットは？



●能力記述とは？

ハンドブック P.3



それぞれの生活上の行為の事例について、日本語でできるようになるために必要な具体的な行動達成目標のこと。

その内容を「～できる」という形式で示しています。

例えば、「警察(110番)に電話する」の能力記述は、

- 1)「住所や電話番号などを伝えることができる」
- 2)「起こったことを順序立てて説明ができる」
- 3)「警察官の質問や指示を理解し、適切な受け答えができる」など挙げています。

●「キャンドゥーステートメント(can-do-statement)」の訳として用いています。



能力評価① ～日本語学習ポートフォリオ～



ハンドブック P.15

学習者の学習動機の維持・継続的な学習支援を一義的な目標に、さらに指導者が学習者の日本語学習をより適切に支援するために、「日本語学習ポートフォリオ」を開発



「日本語学習ポートフォリオ」とは...

日本語学習者の履歴・能力の把握と継続的な支援及び
日本語教育プログラムの改善に資するために学習成果を
蓄積するファイルのこと

[illegible]



能力評価② ～能力評価のメリット～

① 学習者にとって

- ・できるようになったことを確認する
- ・これからの日本語学習の目標や計画を立てる

② 指導者にとって

- ・学習者と一緒に日本語学習の目標や計画を立てる
- ・できることを確認し、教室活動を考える際の参考とする

③ 協力者(家族や地域住民)にとって

- ・学習者が日本語でできることを確認するだけでなく、必要な支援を知る





能力評価② ～能力評価のポイント～

「生活上の行為」がどの程度達成できたか
を評価する 4 水準

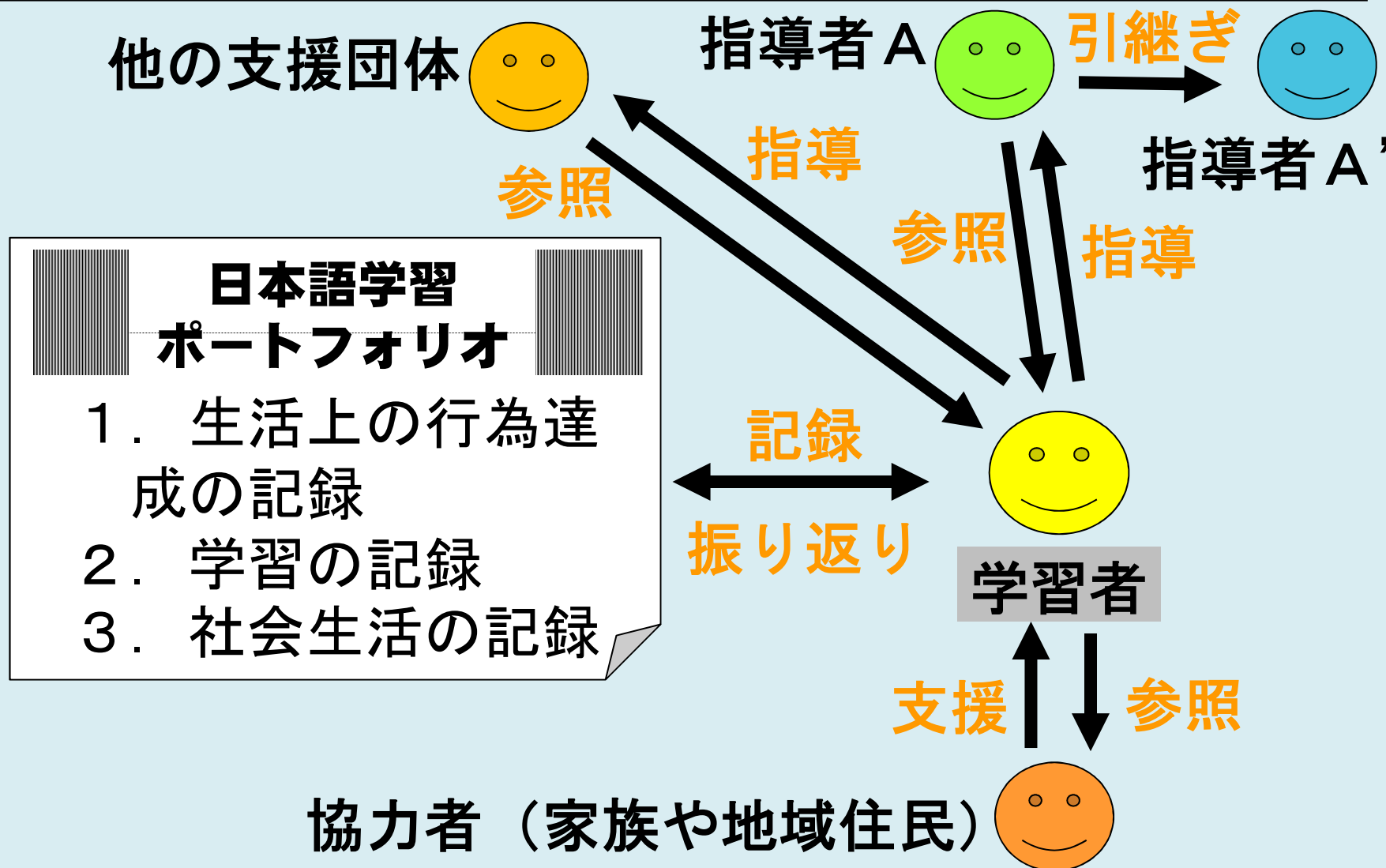
よくできた	学習者が、その場面で期待される最低限の目的以上のことを、母語話者からの特別な援助や配慮なしで達成できる状態
できた	その場面で期待される最低限の目的が、母語話者からの特別な援助や配慮がなくても達成できる状態
なんとかできた	その場面で期待される最低限の目的が、母語話者からの特別な援助や配慮（ゆっくり繰り返す、別の言葉で言い換える、相手の発話を辛抱強く待つ、相手の言いたいことを推測して確かめる、一部で相手の母語を使って説明する、など）を受けることでどうにか達成できる状態
もう一息	意思疎通がうまく成立しない、またはその場面で期待される最低限の目的も達成できたとはいえない状態



能力評価③

ハンドブック P.16

日本語学習ポートフォリオと学習者・周囲の関係



「指導力評価」は、
だれが、どうやってするの？

そのメリットは？





指導力評価① ～目的と評価の対象～



ハンドブック P.17

<目的>

「生活者としての外国人」に対する日本語教育をカリキュラム案等を活用して行う上で必要な能力について評価することにより、その向上を図り、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現につなげる。

<評価の対象>

カリキュラム案等を活用して、日本語教育プログラムの作成、実施、点検、改善をPDCAサイクルに基づいて行う能力。





指導力評価② ～日本語教育プログラムのPDCAサイクル～

Plan（企画）

- I 地域の状況の把握
- II 日本語教室の目的の設定・日本語教室の設置
- III 具体的な日本語教育プログラムの作成



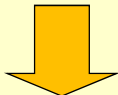
Do（実施）

- IV 各地域の実情に応じた日本語教育の実施



Check（点検）

- V 日本語教育プログラムの点検



Action（改善）

- VI 日本語教育プログラムの改善



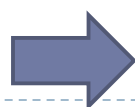
※PDCAサイクルに基づき、指導力の向上や日本語教育プログラムの改善を行い、「生活者としての外国人」のニーズにより一層応えうる日本語教育の実現へ



指導力評価③

Plan-Do-Check-Actionの別		対象例		評価の記録			
指導力評価項目		指導者	コーディネーター	選択項目	① 月 日	② 月 日	③ 月 日
Plan (企画)							
I 地域や外国人の状況の把握							
1. 地域の外国人の状況の把握							
(1) 地域の外国人の状況や学習者の状況を把握している							
1)	地域の外国人の増減とその理由を把握している		○				
2)	学習者がこれまでに日本語学習をどの程度行っているか把握している	○	○				
3)	学習者がこれまでに言語学習をどの程度行っているか把握している	○	○				
4)	学習者の年齢、職業、家族形態などを把握している	○	○				
5)	学習者の学習環境(辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているか、日本語学習に協力してくれる人はいるか、どの程度日本語学習に時間を割けるかなど)を把握している	○	○				
6)	学習者の使用言語とその使用場面、日本語でのやり取りが求められる場면을把握している	○	○				
(2) 学習者のニーズを把握している							
7)	学習者が生活面で課題として抱えていることを「今できないと困ること」「今できるようになりたいこと」「今後できるようになりたいこと」「いつかできるようにになりたいこと」に分類するなどし把握している	○	○				
8)	学習者が求める教室活動の方法や教材などを適切な方法で把握している	○	○				
2. 地域のリソース等の把握							

指導力評価項目一覧

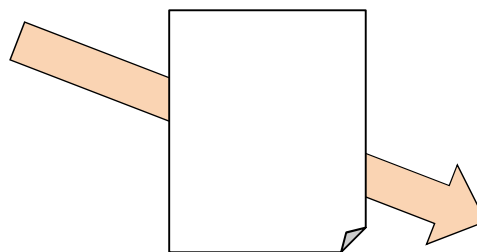


役割として必要な項目を選択して、
チェックシートを作成する。

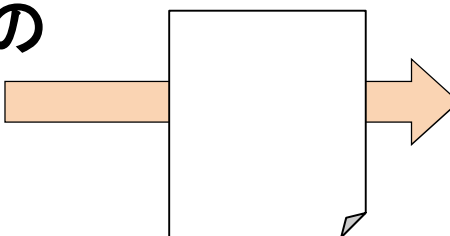


指導力評価④ ～日本語指導力ポートフォリオ～

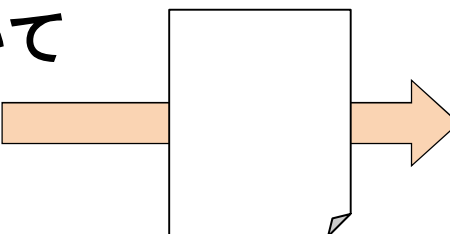
○指導力評価に関する
チェックシートについて



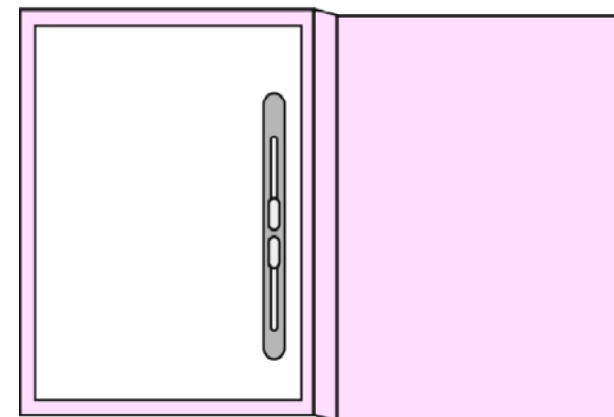
○日本語教育プログラムの
実践の記録について



○研修受講の記録について



日本語指導力
ポートフォリオ





こんな風に役立ててください

一人でじっくりと自分の実践を振り返る時間も大事ですが、チェックシートや研修受講の記録を見せ合い、お互いに気付いたことについて意見交換をしたり、指導力の向上の役に立ったことについて情報交換したりすることも有益です。

さらに、個々人の指導力の向上だけでなく、日本語教育プログラムの点検や改善にも役立ててください。



カリキュラム案の活用について
考えてみよう！



5点セットについて、
もっと詳しく知りたい！
どうすればいい？

ハンドブック P.34

